

平成29年第2回下仁田町議会定例会会議録第1号（7日）									
招集年月日		平成29年6月7日							
招集の場所		下 仁 田 町 議 会 議 場							
開閉会日時		開 会	平成29年 6月 7日午前10時00分				議 長	佐 藤 勇 二	
及 び 宣 言		閉 会	平成29年 6月15日午前10時49分				議 長	佐 藤 勇 二	
応（不応）招議員		議席番号	氏 名		出席等の別	議席番号	氏 名		出席等の別
及び出席並びに		1	小 須 田 肇		○	7	佐 藤 勇 二		○
欠 席 議 員		2	岡 田 邦 敏		○	8	千 野 榮 治		○
出席 12名		3	永 井 正 之		○	9	島 崎 紘 一		○
欠席 名		4	木 暮 弘 元		○	10	堀 口 博 志		○
欠員 名		5	岩 崎 正 春		○	11	岡 田 武 二		○
凡 例		6	佐 藤 博		○	12	佐 藤 公 夫		○
○ 出席を示す									
△ 欠席を示す									
× 不応招示す									
会議録署名議員		2番	岡 田 邦 敏		3番	永 井 正 之			
職務のため議場に出席したものの氏名		事 務 局 長		樋 口 令 子		書 記		小 井 土 直 也	
地方自治法 第121条に より説明のため出席した者の氏名		町 長		原 秀 男		福祉保険課長		岡 野 均	
		副 町 長		吉 弘 拓 生		保健環境課長		猪 野 馨	
		教 育 長		茂 木 学		農 林 課 長		岡 田 恵 子	
		町 長 公 室 長		荻 野 英 雄		商工観光課長		林 通 典	
		総 務 課 長		浅 川 幸 則		建設ガス水道課長		神 戸 宏	
		地 域 創 生 課 長		岩 井 収		教 育 課 長		大 河 原 順 次 郎	
		住 民 税 務 課 長		大 小 原 敏 江					
		会 計 課 長		(住民税務課長兼務)					

議 事 日 程 別紙のとおり

会 議 に 付 し た 議 件

- 1 会議録署名議員の指名
- 2 会期の決定
- 3 一般質問

会 議 の 経 過

開 会 平成 2 9 年 6 月 7 日 午前 1 0 時 0 0 分

○議長 佐藤勇二 ただいまから、平成 2 9 年第 2 回下仁田町議会定例会を開会し、直ちに本日の会議を開きます。

○議長 佐藤勇二 日程第 1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第 1 2 6 条の規定によって、2 番 岡田邦敏君と、3 番 永井正之君を指名いたします。

○議長 佐藤勇二 続いて、日程第 2、会期の決定を議題といたします。
本定例会の会期については、さきの議会運営委員会で本議会の運営等について協議がされておりますので、その結果について、報告を求めます。
議会運営委員長

(島崎紘一議会運営委員長 登壇)

○議会運営委員長 島崎紘一 おはようございます。
議長のご指名がありましたので、議会運営委員長報告を申し上げます。
去る 5 月 2 6 日、午前 1 0 時から 3 0 3 委員会室において、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期、日程及び議案の取り扱い等の議会運営に関する事項について、協議をいたしましたので、その経過と結果についてご報告申し上げます。
まず、会期につきましては、本日から 6 月 1 5 日までの 9 日間とし、審議日程につきましては、お手元に配付されている日程表のとおりであります。
本日は、会議録署名議員の指名、会期の決定の後、町長のご挨拶をいただきます。

その後、一般質問を岩崎正春議員、佐藤公夫議員、木暮弘元議員の3名が行います。

また、一般質問終了後、全員協議会を開催し、本定例会に提案されております報告第3号から第54号議案の細部にわたる説明をしていただきます。さらに時間内に終了しない場合は、8日に引き続き開催させていただきます。8日は引き続き全員協議会を開催する場合は、終了後、7日に全員協議会が終了した場合は、午前10時より本会議を開催していただき、報告第2号から報告第4号を報告の後、第34号議案から第53号議案までの提案者の説明、質疑、討論、採決を行います。

次に「第54号議案」は上程し、説明、質疑の後、予算議案を予算決算特別委員会に付託し、陳情につきましては、所管の委員会に付託し、審査をお願いすることに決しました。

9日に、予算決算特別委員会を開催し、終了後、総務常任委員会を開催させていただきます。

10日、11日は、休日につき休会といたします。

12日、13日及び14日は委員会予備日といたします。

15日最終日は、本会議を開き、各委員長から、委員会審査の報告を受けた後、「第54号議案」に対しての討論、採決、また、陳情の採決を行い、全日程を終了する予定です。

以上、この会期、日程等にご賛同賜り、円滑な議会運営ができますよう議員各位のご協力をお願い申し上げまして、報告といたします。よろしくお願いいたします。

○議長 佐藤勇二 お諮りします。

本定例会の会期は、議会運営委員長報告のとおり、お手元に配付の日程表により、本日から6月15日までの9日間にしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 佐藤勇二 異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は、本日から6月15日までの9日間と決定いたしました。

○議長 佐藤勇二 続いて、町長から定例会招集の挨拶を願います。町長
(原秀男町長 登壇)

○町長 原秀男 皆さん、おはようございます。

平成２９年第２回下仁田町議会定例会開会に当たり、ご指名をいただきましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、議員の皆様におかれましては、お忙しいところ定例会にご参集いただきまして大変ありがとうございます。

間もなく関東地方も梅雨入りしそうな報道がされております中、急な天候不順は困ったものです。農作物に被害のないような天候を期待したいところであります。

また、あじさい園のオープニング式典が今月の１１日に予定されておりますので、アジサイの花にとりましても恵みの雨となりますことを願っております。

さて、本定例会には議員派遣の件についてのほか、２件の報告案件、専決処分の承認を求めることについて及び農業委員の任命、条例改正、並びに平成２９年度一般会計補正予算など第３４号議案から第５４号議案までの２１議案をご提案申し上げます。

さらに陳情として、教職員定数改善と義務教育費国庫負担制度の国負担割合を２分の１に復元することを求める意見書についてがございます。いずれの案件についても後ほど担当課長から説明を申し上げますので、よろしくご審議の上、決議を賜りますようお願い申し上げます。

以上、平成２９年第２回議会定例会開会に当たりましての挨拶といたします。本日は大変ご苦労さまでございます。

○議長 佐藤勇二 次に、日程第３、一般質問を行います。

通告書に従いまして質問を許します。岩崎正春君

(岩崎正春議員 一般質問席へ)

○５番 岩崎正春 議席番号５番、岩崎正春が通告書に従いまして一般質問させていただきます。

まず最初に、人口減少に伴う定住対策と産業振興ということで大きな課題をご提示させていただき、まず第一に総合計画、先般答申されました第５次総合計画と戦略ビジョンを見据えた町の展望を町長にお尋ねいたします。よろしくお願いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 岩崎議員の質問にお答えいたします。

当町においては、平成２７年度に策定しました下仁田町人口ビジョン及び下仁田町まち・ひと・しごと創生総合戦略を初めとした各計画との整合性を

図りつつ、新たなまちづくりの指針となります下仁田町第5次総合計画を平成29年3月に策定しました。下仁田町まち・ひと・しごと創生総合戦略に関しては、本年は3年目の中間年に当たります。

具体的な事業としては、次に掲げるような事業を実施しております。ねぎとこんにゃく下仁田奨学金補助制度や企業版ふるさと納税、旧黒澤商店を活用した企業支援、高齢者対策としてのタクシー券配布拡充、空き家バンクの充実や定住促進住宅用地無償譲渡、移住ポータルサイト整備、道の駅への移住コーディネーター配置、英語支援員配置などの英語教育強化、放課後子ども教室や土曜スクールなどの教育環境整備、入学祝い金や第2子以降保育料無料、不妊治療助成などの子育て支援、販路拡大などの中小企業補助やハローワークと連携した企業説明会といった就労支援などです。これまで行った事業を検証、評価しつつ、希望の持てるまちづくりを目指していきたいと考えております。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 総合計画もまち・ひと・しごと総合戦略ビジョンもそれぞれ議会のほうでもお示しいただいて協議しているところですが、今町長が述べられたことはもちろんその中に盛り込まれていることですが、私の考えとすれば、まちづくりのやっぱり岩盤は定住対策だと思っております。観光に力を入れて交流人口をふやすのも結構ですが、やっぱり全ての道はローマに続くではないですが、全ての施策は定住に続くことが根底にあることが大事ではないかと考えております。

6月現在の下仁田町の人口は7,733人、32年度の戦略ビジョンで掲げている目標人口が7,383人ということですが、今の傾斜率からいけば、もう来年度にはこの数字に達すると予想されます。今の町長の答弁から推察しますと、町長は折に触れ、できることは何でもやるとたびたびいろんな場所でおっしゃっておりますが、その辺の人口対策について何をどうやりたいのかがわかりません。そこで、私は、全部はできませんから、個別のそれぞれ施策、問題について町長の姿勢をお尋ねしたいと思います。

まず、その前に5つの項目を掲げたんですけれども、質問の時間の順序がありまして、④番と⑤番の順番を交代してもらいまして、⑤を先にやり、④を後にさせていただきたいと思います。

それでは、新規採用した職員を含めた町外居住者の推移についてお尋ねします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 細かい返答は担当課長でよろしいでしょうか。

○5番 岩崎正春 はい。

○議長 佐藤勇二 町長公室長

○町長公室長 荻野英雄 それでは、岩崎議員のご質問にお答えさせていただきます。

まず、新規採用を含めた町外居住者でございますが、平成28年度の数字でございますが、派遣職員5名を含めました職員総数で121名で、うち町外に住民登録をしております職員が39名、率にいたしまして32.2%という状況で、平成27年度比較いたしまして1%ほど増加をしております。

また、平成29年度、ことしの4月現在の状況でございますが、派遣職員4名を含めました職員総数で124名と、うち町外に住民登録をされている職員が43名、率にいたしますと34.7%ということで、平成28年度の比較でございますが、2.5%ふえたという状況でございます。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 前回の28年度の3月の議会で示された数字は25年で36.1%ということで、議会からたびたびそういった問題意識を提起しているにもかかわらず、この辺の推移が改善されてないということはまことに残念だと思います。これは当然難しいテーマではありますが、町内居住はもちろん憲法で、どこに住んでもいいことは保障されているんで、強制はできないんですけれども、この過疎地や高齢化する現状を考えますと、災害対応や危機管理を鑑みて、町外居住である対応には問題があると町長は考えているかどうか、あるいはどこに町内居住しない原因があるのか、その辺を調査したことがあるのか。もっとやっぱり役場の職員の中で問題意識を共有すべきだと思いますけれども、町長の見解をお願いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今の危機管理ですけれども、災害対応や危機管理におきましては、徒歩での登庁が可能な緊急登庁職員を指定しており、その体制は整えております。

居住地のことにつきましては、議員おっしゃるとおり、その自由を強制できるものではございません。転出する住民の方にも窓口でアンケートをしております。また、職員につきましても、可能な範囲でそれに当たっていきたいと思います。さらに新規採用におきましては、町内在住者の応募者が少ないのが現実でございますので、今後の募集方法等についてもまた考えていかなければならないのかなとは思っております。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 職員の中でそういったどこに、町外に住みたい、あるいは町内に住みづらいという調査をしたことはあるかどうかについてはどうですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 ないそうです。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 これは町長も昨年の3月には同様な質問してありますので、その当時のやっぱり疑問に思ったことを町長になったんですから、素直に職員と向き合って、ぜひアンケート調査等をしていただきたいと思います。

まち・ひと・しごとの戦略ビジョンで提示された統計によりますと、下仁田町は住みやすいとは思えないという数字が71%いるにもかかわらず、町内に住み続けたいと希望を含めて81%の方がいらっしゃるわけです。だから、そのギャップが何なのかというのを解明しない限り、定住移住の真の施策というのは見えてこないような気がいたします。

今、町長公室長も答弁したんで、ついでと言っては申しわけないんですけども、今の役場の体制の中ではなかなか打破しにくいとすれば、例えば石川県のかほく市は、住みやすさランキングでは7位で、人口もここ5年ほどほとんど変わっていません。幾らか微増ぐらいです。そのまちでやっていることは、やっぱり3万5,000人ぐらいの市なんですけれども、財政規模とか人的な規模を考えると、財政を膨らませて、それで対策はするのでは無理だとすれば、若い子育てをしている最中の人に直接意見を聞くような、意見を出しやすいような場所を設定したらどうかと思います。かほく市でやっているのはママ課というのを設置して、これは課の設置条例による課ではなくて、地方創生課の中でも町長室の直轄の課でもいいですから、名称は課なんですけれども、設置条例によらない課で、そういった乳幼児を持ったお母さん方の直接意見というような方法も一つの方法だと思います。今の堂々めぐりのようなことをしていたんでは真の打開策は私は見えてこない、このように考えております。その辺の考えはどうですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 そうですね、考えていきたいと思っています。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 私もちっと苦情は言いたくないんですけども、昨年の12月の一般質問でも町長自身の所信表明に対して質問したのに対して、考え、検討していきたい、考えたいという答弁の連発でした。やっぱり町長の姿勢、

町民に訴える、議会を説得していくという姿勢は、考えておくんではいつ結論が出るのかさっぱりわからないと思います。その辺は今言ってしまったことを急に改めるのは大変でしょうけれども、この後の質問で具体的な答弁を得られるようにお願いしたいと思います。

続いて、奨学金の利用状況と今後の対策についてお尋ねいたします。

3月に開始した奨学金制度の申請と給付状況、その中に学年途中の申請、融資、給付もあったのかどうか、それをお尋ねいたします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 担当課長から説明させます。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○地域創生課長 岩井収 ただいまの岩崎議員の質問に答弁させていただきます。

平成29年3月より開始されましたねぎとこんにゃく下仁田奨学金の平成29年5月末現在の利用状況でございますが、申し込み者59件で、融資申し込み額は1億1,529万円でございます。そのうち金融機関による融資審査完了が44件で、融資額8,808万円となっております。申し込み者の内訳でございますが、高校生25件、大学生29件、大学院生1件、専門学校生4件でございます。

申し込み者が新入生か在学学生かの内訳でございますが、新入生が27件、在学中が32件でございます。来年度卒業の高校3年生の申し込みも7件、大学4年生も3件ございますので、平成30年度以降から元金町補助支給も開始されます。当初想定した申し込み者より少ないのですが、実際の利用者による返済シミュレーションも作成しつつ、当面は当初想定した2,500万円の基金の積み立てを継続していきたいと考えております。

財源といたしましては、これまで行ってきたふるさと納税とあわせまして、地方創生応援税制、いわゆる企業版ふるさと納税にご協力いただける企業へのアプローチを強化し、さらに安定した事業運営を目指していきたいと考えております。

なお、本事業については、ことし3月受け付けを開始したばかりでございますので、学生の皆さんの定住促進効果検証というのはこれからでございますが、さきのご質問でも町長より回答申し上げたような各種人口減少対策施策を実施しつつ、同時にこの効果について今後も検証していかなければならないと考えております。

以上でございます。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

- 5番 岩崎正春　　今の答弁によりますと、高校3年生あるいは大学4年生で来春卒業の予定される10人いるということです。今の状況で卒業して下仁田町に定住していただける、そういう効果が見込めるかどうか町長の所見を伺いたと思います。
- 議長 佐藤勇二　　町長
- 町長 原秀男　　可能性を求めています。
- 議長 佐藤勇二　　岩崎君
- 5番 岩崎正春　　執行者で貴重な税金を、あるいはふるさと納税してくださった方々のことを考えると、今の町長の答弁では実に不十分だと思います。学生さんで通われているわけですから、例えばこれはそんなに考えなくても、具体的な例として考えられるのは、在学中の学生さん、あるいはそのお宅に町内近辺の就職情報とか、町の状況とかを年に一遍とか二遍とか、そういうふうなものを送付して、町との距離感を縮める、そういう努力ぐらいは最低できるんじゃないですかね。5月の求人情報を見ますと、安中、富岡、甘楽町、下仁田町を含めて367件ほどあります。これは会社が重複している部分もありますけれども、今この求人難の時代ですから、やっぱりそういう情報もあわせて情報発信していく、そういう考えもありませんかね。
- 議長 佐藤勇二　　町長
- 町長 原秀男　　はい、そうですね。参考意見としていただきます。
- 議長 佐藤勇二　　岩崎君
- 5番 岩崎正春　　参考意見として聞いて、具体的に取り組む姿勢というのは今の感じだと残念ながらうかがえないんですけれども、いつごろまで、もう卒業するんですよ、来年の春。もう少なくともこの秋あるいは夏ごろにはそういった情報を流していただきたいと思うんですけれども、そのぐらいせっぱ詰まったお気持ちはございませんかね。
- 議長 佐藤勇二　　町長
- 町長 原秀男　　わかりました。
- 議長 佐藤勇二　　岩崎君
- 5番 岩崎正春　　それと、今後も優良の町有地の無償譲渡計画等はございますか。
- 議長 佐藤勇二　　地域創生課長
- 地域創生課長 岩井収　　現在、新規の無償譲渡計画はございませんが、適切な土地が確保された場合には検討していきたいと考えております。

なお、既に無償譲渡の計画を立てまして、実際に募集しております吉崎、宮畑地区におきましての定住促進住宅用地といたしましては3区画を造成い

たしまして、うち2区画が決定しております。まずはその残っている1区画についての募集周知強化を図ることをまず推進していきたいと考えております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 町長の任期ももう既に半年過ぎて、経過の割合から言えば、もう8分の1の任期を過ぎているわけなんですけれども、私だけかもしれませんが、議会に対して町長はどういうふうにしたいかということがなかなか明確にわかりません。今般の答弁もなかなかわかりづらいのは非常に残念だと思います。

続きまして、地域の現状と活性化対策はどのように臨まれるのか所見を伺いたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 当町は昭和55年に過疎地域に指定され、産業振興、生活環境整備等を積極的に実施しましたが、若年層を中心とした人口流出、また少子高齢化は依然と進行しております。高齢化比率は44%を超え、出生数については減少の一途をたどっております。その影響は産業や経済分野にも広がっており、第1次産業人口の激減に伴い、農作物の収穫量は減少し、農業生産全体は大きく下がっております。また、林業についても価格の低迷が影響しまして、やはり従事者の高齢化、新規就労者の減少が進み、衰退が目立っております。商店も厳しい状況もあります。

そんな中でも活性化対策というのは、先ほど1番の質問にお答えしましたように、そのような手を打っていく状況であります。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 町長は所信表明のときでも、3月のほかの議員の質問にもご答弁なさっておりますが、町なかをレトロな町にしていきたいという思いがあるという答弁、気持ちを示していただいたんですが、まだもって具体策を議会にお示しできないとなると、なかなかこれは簡単ではないだろうなというふうに感じています。それとはまた私は違った視点で、今ある企業さん、あるいはいろんな活躍している方々を表彰する名誉町民条例みたいのが昭和43年の9月に制定されているんですけれども、名誉町民になられている町民の方はわかりますかね。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 吉田さんご夫婦だと思います。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 多分吉田さんお一人だと思いますけれども、特に下仁田町では今まで製造業あるいは農林業の衰退が非常に著しく顕著で、特に働く場所を失っているという点が大変大きいと思うんですよね。それなので、町内に長く雇用したりしている企業あるいは顕著な業績のある企業さんも名誉企業みたいな、名誉町民みたいな形で表彰できるような弾力的な運営は可能でしょうか。

○議長 佐藤勇二 地域創生課長

○地域創生課長 岩井収 お答えいたします。

現在、下仁田町では下仁田町功労者表彰規程におきまして、町政の発展に尽力するとともに、公益の増進に寄与し、特に功績のあった者に対して行う表彰に関し必要な事項を定め、もって町政の振興発展に資することを目的とするとされておりまして、さらにその中の規定第5条におきまして定められている善行者表彰の範囲として、特に町民の模範となるような善行のあった者もしくは町の公益のために100万以上の寄附をした者のいずれかに該当する者について行うとされております。その中の第5条、ただし書きにおきまして、町長が認めた場合はこの限りでないとされておりますので、名誉企業という名目ではございませんが、選考委員会の承認の上で表彰等対応は可能と考えます。ただし、どのような表彰基準を設けるのかといった課題は残ると思います。

以上でございます。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 町の公的機関が企業さんを応援するという意味では、オフィシャルで町が公認しているよということも一つの企業としてはステータスとなるかと思いますので、その辺の弾力的な運用を早期に議会にも示していただきたいと思います。

それと、引き続き12月の議会で町長の所信表明で述べられたバスの無料化において質問したところ、これからの検討だと思っていますということや、すぐには難しいという折り返しの答弁をされているかと思います。その後どのような検討をなされているのかお聞かせください。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 バスの無料化は国や県からの歳入を失うことになって、運行経費全額、一般財源負担となるという状況なので、無料化にかわる施策として、平成29年度より高齢者対策としてタクシー券事業の拡充をいたしました。

また、料金の減額についても検討しております。利便性の面では道の駅高速バス乗り入れを鑑み、路線変更や時刻表の変更を行う予定です。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 高齢化の一番顕著なものの一つに、やっぱり買い物難民や高齢者ドライバーの事故もこれからふえることこそ予想され、減ることはないと思います。そこで、バスの無料化で、200万円の収入があると。それを無料化することによって1,440万円の交付税が棒になるかもしれないというこの前の答弁だったんです。一番簡単にできるのは、特別職の報酬を35%カットすれば、交付税が減額になったって十分びくともしないわけです。私は町長にはそういう自分の施策に対して確たる信念を持っているかどうかということが大事だと思うんですね。

減額といっても、まだやる方法はあるんですよ。バス料金に見合うクーポン券、商品券じゃなくてクーポン券を発行して、200円払った方に1,000円以上町の中で買い物をしたら、その200円分のクーポンが使えるようにすれば、町なかの活性化も図れるんだと思いますよね。そういうことはそんなに知恵を絞らなくても私は浮かぶようなアイデアではないかと思います。それは町長の覚悟が前提にあれば、いろんなことを何でもできることはやると町長は公言しているわけですから、そういうことをだめでもやっぱり示して、果敢に挑戦するという姿勢がないと、職員のモチベーションも私は下がると思いますよ。

それと、もう一つは、いろいろ道の駅あるいはそういったことも町なかに誘客する、あるいは旅行会社による観光客の誘致というのがありますけれども、中心街の活性化ばかり、町なかばかりに目を向けるのではなくて、じゃ中心街はなぜ栄えたかということを考えれば、周りの衛星となっているような地域が活性化したから町の中心街はあるんだと思いますよね。前回のほかの議員でもそういった質問がありましたけれども、やっぱり町長の地元の本宿をどういうふうにするか、そういったことももっと具体的に地方戦略ビジョンの策定でもあるんですから、示してほしいと思います。

もう一つは、地域を活性化するもう一つの方法は、自転車のヒルクライムです。富岡でも神流町でもいろいろなところで、榛名でも嬬恋でもやっていますけれども、自転車のロードレースというのは危険が多いんですよね。ぐるっと1周40キロとか60キロを回るという自転車レースは大変。でも、ヒルクライムというのは割と上る専門ですから、下りの事故が一番多いわけです。だから、上る専門で、上った時点でゴールというふうにすれば事故の

リスクは少ない。条件とすれば、上から車が来ないとか、急な坂道ほどいいとかあるわけです、ですから、旧小学校を拠点にしたり、そういったところを拠点にしてスタートして、沿線の地域の住民に給水のお手伝いしてもらったり、応援のお手伝いしてもらって参画してもらえば、やっぱり地域の人たちも多分大変な面もあるでしょう。ご理解が得られないとだめですから、大変な面もあるでしょうけれども、地域の行政に対する参加意識というのが高まるような気がします。そういったことも検討してもらえるかどうか答弁をお願いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 ちょっと1つ戻りますけれども、バスの関係でクーポン券の検討は始めております。

それから、今の自転車のイベントの話ですが、教育課長に答弁させます。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 岩崎議員のご質問にお答えをさせていただきます。

一番近くで妙義山ビューライド in 富岡というものがことし5月14日に第2回目が開催されました。参加者も増加傾向にあり、約400名に近い方が完走されました。下仁田町も後援団体といたしまして、下仁田町の区間の交通誘導及び中之嶽駐車場のフードステーションの運営にスポーツ推進員及び食改推の方々が中心となり、協力をしてまいりました。

本年度の反省会がまだ開催されておりませんので、平成28年度の報告のみとさせていただきますが、28年度につきましては、エントリー者数が303名、男女別で見ますと男性280名、女性23名となっております。

また、地域別で見ますと、県外が230名、県内73名、うち富岡市内が58名となっております。近県からの参加者が多いことはこれで挙げられるかと思います。

また、参加者につきましては、岩崎議員のお話の中にもありましたが、近年増加傾向にあります。

妙義山ビューライドについては走行距離が61キロ、制限時間が5時間となっております。また、交通誘導だけでも120名近いボランティアの方々の協力が必要となっております。経費につきましても923万円の経費がかかっております。始めるからには継続ということを考えますと、十分な検討期間が必要かというふうに考えております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 もう一つ必要なものを忘れていました。自転車の鍵のかかるスタンドをつくらなきゃだめ。非常に高価な自転車でやってきます。それで、今900万程かかると妙義の関係でしょう、そんな規模のものをやれと私は言ってないんです。調査をちゃんとしてください。

それと、もう時間が10分を切って、あと8分ぐらいになってしまったんで、道の駅の改修計画等、地場産業をそれにリンクして、どういうふうに育成しているかについてお尋ねしたいと思います。12月の議会では地産外消、販路拡大したいという所信表明がありました。その中身について、幾つかもう既に執行部側には質問の内容は示してありますので、ざっと答弁をお願いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今の話ですが、町で大きく3つの狙いを持って再整備を進めています。1点目ですが、下仁田ねぎを中心とした農産物の直売機能の充実、地産外消による販路拡大と、それに伴う通年での所得が得られるような農業振興支援です。

2点目ですが、町の玄関口として、町及び広域的な総合情報発信拠点の機能強化です。町観光情報提供、移住定住の相談等ができるように人員を配置し、土日対応も現在も実施中です。

3点目ですが、町民が生涯活躍できる社会の実現に向けた農産物の集出荷や買い物支援、子育てサポートなどの地域福祉支援の拠点としての整備です。このほかにも地域防災の拠点としての機能、地域の雇用促進の場所等、あらゆる機能を持たせた小さな拠点として今後も整備及び運用を進めてまいりたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 ここに出席している議員の皆さんには、先般、富岡甘楽議員連絡協議会で講師をしていただいた方から、観光入り込み客数とか観光消費額、等々のデータの資料が示されました。下仁田町以外はかなりの伸びを示していて、観光消費額に関しては下仁田町だけが大幅に減額しているんですよね。これは群馬県の観光物産課が出しているデータなんですけれども、この辺はもちろん重点道の駅になる以前のデータなんですけれども、その辺は回復できる見込みがございますか、どうでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 頑張ろうと思っています。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 頑張るのはみんな頑張っているから、頑張っている形を示してもらわないと、協議にも話し合いにもならないので、ぜひその辺の具体的な、一番わかりやすいのが施策に予算をつけて、こうやりますというのが一番我々はわかりやすいわけですから、そういうものを示していただきたいと思います。

もう既にこの道の駅の計画を見ても、フードコートが大分拡張されたり、近隣の市町村の物産店が出るんですけども、やっぱりその部分の費用負担をどうするのか。今まで健全経営をして黒字経営をしてきていても、その辺がはっきりしてないと、せっかく今まで苦勞して黒字経営したものが赤字になる可能性も私は危惧しているんですよ。やっぱり地場産業の生産者というのは高齢化していますから、6次化なんかもっと大変ですよ。だから、つくった人が販売までして、売れ残ったものまで回収してという作業をする今の現状でしている限りは、やっぱり地場の産業というのはふえないと思う。やっぱりメニューやそういうものを考えて提示して、販売とか集出荷のサポートをするとか、そういう具体的な対策があるかどうか、その辺をお伺いします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今の件ですけれども、これは産業開発しもにたがこれから検討中、計画しているところでありまして、私はそのサポート役ですから、具体的なことはちょっとまだ言えません。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 サポート役なんですけれども、そこに出している町民が負担を強いられたり、苦勞を強いられることが私は容認できないから、もっと具体的な計画を町主導で道の駅の改修計画も立てているわけだから、その辺ははっきりしてもらいたいと思います。

それで、近隣の市町村のことを例に挙げては申しわけないんですけども、南牧のオアシスは金額はもちろん下仁田の道の駅に及びませんよ。でも、村民の出店者が100%、100人出店しているそうです。一部絵はがきとか、ストラップとか加工を要するものは外部に委託しているらしいですけれども、100人の方が出店しているということで、それもやっぱり村に聞けば、いずれは集出荷とか、そういうものも何らかのサポートしていかないと大変だろうなということを言っています。そういった計画はあるんですか、ないんですか。どうでしょうか、もう一度お聞きします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今の先ほどの問題と関連ですけれども、具体策は今、観光課長に説明させます。

○議長 佐藤勇二 商工観光課長

○商工観光課長 林通典 お答えいたします。

道の駅再整備につきましては、特産品の販売スペースというものをつくって、下仁田ねぎを初め、農産物をしっかり売っていくと。直売所ですので、お客様のニーズもある程度把握できます。売れるものをしっかり売っていくというのをまず第1点に考えております。

また、ご質問の集出荷ですけれども、しっかりしたものが生産できる方、高齢者等につきましては、集出荷のほうに出向きたいと考えております。

また、新鮮な地元の農産物が年間を通じて安定的な供給がされること、これがまず道の駅そのものの存在価値にもかかわります。道の駅としましては品質がいいものは直売し、そうでないものは加工に回すなど、農産物を幅広く受け入れていきたいと考えています。安定した収入が見込めることにより、生産意欲の向上や新規就農者の増加にもつながり、耕作放棄地の減少等の好循環も生まれますように生産者の支援をしてまいりたいと考えております。

○議長 佐藤勇二 岩崎君

○5番 岩崎正春 もう余り時間がないですね。何分ぐらいありますか。

○議長 佐藤勇二 あと1分です。

○5番 岩崎正春 下仁田町には過去には国鉄の列車荒船号が昭和36年4月から44年の9月まで、上野下仁田間を4時間13分で乗り入れて運行したという歴史もありますし、妙義に客ケーブルリフトというんですか、昭和38年の8月から43年まであった時代があったんですね。今で言えば九州のななつ星とか東日本の四季島ですか、ああいった先端の観光開発が下仁田町で行われたんです。それでもなかなか長続きしないというのは、やっぱり観光というのは常に新しい施策、事業を打って出ないと長続きしないんだろうなと思う。でも、今度の道の駅の改修では、地場の人たちが潤う下仁田町でも何とか食っていける。最終的には定住につながる。そこに根本を置いてやっていただきたいと思います。いろんな観光施策とかいろいろ町長が今述べましたけれども、基本は私はここに住んでもらう、定住してもらう。それには雇用と住まいの住みやすさの対策を重点を入れてやっていただきたいと思いますけれども、町長、最後の所見を伺いたいと思います。

○議長 佐藤勇二 短目をお願いします。町長

○町長 原秀男 道の駅の問題ですけれども、今言ったような本当に地元が潤う、

そういった方向を向いていることと思っています。

また、定住対策も今までのことを継承しながら、またさらに深く考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 岩崎君、短目をお願いします。

○5番 岩崎正春 先ほどから考えたいとかと言っていますけれども、いつごろ、どのぐらい私は待っていればいいんですか。どのくらいのスパンで待っていればいいですかね。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 しばらくお待ちください。

○議長 佐藤勇二 時間です。

○5番 岩崎正春 それじゃ話にならないですよ。これだけ町長が歯がゆいから私のほうがカッカ、カッカ熱が入ってそんな答弁するようならもう町の執行者として疑問を感じます。とにかく職員はやる気にいる人がいますから、命を出して動かしてください。

以上です。ありがとうございました。

○議長 佐藤勇二 ご苦勞さまでした。

ここで暫時休憩をします。

再開は11時とします。

休 憩 午前10時50分

再 開 午前11時00分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開をします。

続いて、一般質問を許します。佐藤公夫君

(佐藤公夫議員 一般質問席へ)

○12番 佐藤公夫 議席番号12番、佐藤公夫が議長の発言の許可を得ましたので、ただいまから一般質問をさせていただきます。

私は通常選挙で落選して、1年数カ月間一住民として町行政を見てまいりました。機会がありまして、6カ月前の補欠選挙でめでたく無投票の当選を果たすことができました。この1年6カ月間で住民目線を見た行政と、この6カ月間の議員としての行政を見たことについてじっくりと見させていただきましたので、二元代表制の一員として、ただいまから質問を行いますので、誠意を持ってご発言願いたいと思います。

まず第1番に、町長は就任時、国も県も町も予算編成の時期でありました。この予算編成の時期に当たって、必要財源を求めて町長は中央省庁に出向か

れましたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 新規で私も初めて町長に当選させていただきました。１１月２７日で、今年の１２月５日より登庁ということで町に入りました。そんな中で、まずは県から国、表敬訪問、これが先決と考えまして、まず１２月７日に県知事、また副知事及び各県の部局、そして県議会を訪問、また１２月１９日には織田沢県議を訪問、年がかわりまして２月２２日、小渕衆議院議員、中曽根参議院議員、山本参議院議員を訪問しております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○１２番 佐藤公夫 必要財源を求めて中央省庁の訪問があったかと。代議士等の訪問についてお尋ねしておりません。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 表敬訪問でありました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○１２番 佐藤公夫 ２９年度の予算の中で商工費の国からの交付金が１億４，０００万ほど計上されておりますけれども、これは何もしなくて国が１億４，０００万円下仁田町に交付したんでしょうか。

時間がないんで、暫時休憩をとったら、その時間だけ質問の時間を延長してください。

○議長 佐藤勇二 わかりました。誰答えますか。

副町長

○副町長 吉弘拓生 ただいまのご質問でございますけれども、道の駅等につきましては、地方創生の総合戦略に基づきまして、いろいろな各種交付金が優先的に当たるようになってございます。その部分が多分入っているものであろうかというふうに思います。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○１２番 佐藤公夫 それはその答弁ですと、副町長がそれぞれの関係省庁に出向かれたという解釈でよろしいですか。

○議長 佐藤勇二 誰答えますか。

佐藤君

○１２番 佐藤公夫 返答は保留してください。時間がもったいないんで、次の質問に移らせていただきます。

県庁それぞれの部局に訪問されたと。織田沢県議ともお会いになったとい

う中で、平成29年度の予算の中で、県費として下仁田町の事業をどのような形で織田沢県議に下仁田町の事業を理解していただきましたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 あくまで表敬訪問でありました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 それでは、これから織田沢県議と行き会われたときには、まず国道254号線の南野牧横間地区で起きた交通事故、長時間にわたって全面交通どめになりました。あその場所は既に死者が2名出ている、冬場において大変危険な道路ですので、それがまず第1点。

もう一点が、和美峠の路線改修、これは下仁田町にとって早急な課題であります。この和美峠の改修は知事にも申し上げてあるんですけれども、群馬県の交通7つ軸に対しては知事の方針には賛成ではあるけれども、我々西毛地区、下仁田、南牧、富岡、甘楽町、一切関係ない。1年間1,000万人以上来る軽井沢の観光客を和美峠の改修によって下仁田の荒船風穴、ジオパーク、富岡の製糸場、甘楽町の楽山園、藤岡と、ここに誘客をするようあわせてこれから織田沢県議には早急に予算づけをしてもらうようお願いをしていただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 通告書にないんですが、お答えします。

先ほどの南野牧、また和美峠の件につきましては、4月でしたか、4月、5月、いずれにしましても、土木事務所とのいろんな打ち合わせというか会議、それとまた先月、県土整備部長との懇談会もありました。もちろんそれは織田沢県議も同席です。そんな中では話としてしてあります。またさらにかぶせたお願いをしていこうと思っております。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 通告書にあってもなくても今までやってきたことですから、その辺のところご承知の上、質問を聞いていただきたいと思います。

荒船の風穴の交通体系について、以前にもこの議場で一般質問された議員さんがおりますけれども、今の土曜、日曜、祭日の一方通行の解除に向けて、あと退避所2カ所、見通しのよくなるように杉の二、三十本を伐倒することを織田沢県議に陳情をしてもらいたいと思いますけれども、いかがでしょう。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 その予定で動いておりますが、中間報告をさせます。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 織田沢議員への協議ではないんですが、世界遺産課のほうに相談に参ってきました。開設当初といいますか、世界遺産の認定当初と比べますと、特に平日の来訪者の数が減っております。そんなこともあるので、平日だけでも下から入れさせていただいて、下の駐車場を使いたいの、検討願いたいよというお話を世界遺産課のほうにしております。向こうからの話としましては、世界遺産になった当時のデータと、今年度のデータを持ってもう一度相談に来てくださいというのと、あと荒船風穴につきましては、保全整備委員会もございますので、その中でも一度協議をしていただいた上で相談くださいと話がありました。それを受ければ世界遺産課が音頭を取っていただいて、県庁内での関係各位と話を詰めるということで現段階に至っております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 今、課長は平日、下から進入をして、下の駐車場を使いたいと言っていますけれども、平日は通行自由なんです。交通規制がかかってない。そういうことをもうちょっと現場をよく認識して発言をしてください。

3月22日に町長含めて数人の方が林野庁を訪問されたようでありますけれども、これはCLTに関係することで訪問されたのでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 これは表敬訪問であります。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 表敬訪問に参られるにどなたかの紹介がありましたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 紹介者ですが、元群馬県職員でありました浦野貢氏であります。この方は私の親戚でありまして、また林野長官とも縁があるということで紹介いただきました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 中央省庁に伺う場合には、民間の人に紹介してもらうことよりも、地元選出の国会議員に紹介してもらうことがより表敬訪問プラス下仁田町の林野行政に関する話までできるかと思います。同行者はどなたでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 同行者は浦野貢氏、観光協会事務局長の松本氏、それと当時の農林商工課課長、また現在の林業係長が同行いたしております。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 話の内容は単なる表敬訪問だけで終わったんでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 表敬訪問といっても林野長官でしたから、いろんな国の今後の林業施策、その方向性というものを聞かせていただきました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 表敬訪問する際に、手土産は持っていきましたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 そうですね、持っていきました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 これ手土産は絶対必要なんです。表敬訪問して訪問先の方がしょっぱいや甘いやからいやうまいやという中に表敬訪問をした市町村を必ず覚えています。議会でも行政視察をする際には、その訪問先に手土産は必ず持っていきます。予算の範囲内で初めて訪れるところには手土産を持って訪れるのが一番いい表敬訪問だと思いますので、今後もそれは予算の範囲内で引き続き続けていただきたいと思います。

なお、この表敬訪問に観光協会の松本君がなぜ同行したのか、その辺のところを。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 町といたしましても森林、これ観光資源として一部有効活用をしていきたいと考えており、また、観光協会としても同様な考えで森林を観光施策の一つとして利活用していきたいという考えを持っていることなので、話がそういうことだったので、同行させました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 今の答弁を聞いていますと、松本君のその提案を持って表敬訪問時に森林を観光開発の一助にしたいというふうに聞こえましたけれども、そのようなことでよろしいでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 目的は表敬訪問であります。ただ、林野長官ですから、何かの話でそういうことが出ないとも限らないので、その辺も含めてそういうふうに、急だったんですけれども、そういうことになりました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 町長の下仁田町の林業行政に関しては、私はてっきりCLTが最優先だなと今まで所信表明、12月あるいは3月の定例会で必ずこれに

付随した質問が出されて、森林を観光開発のために利活用したいというお話は一度も出てない記憶ですけれども、私の記憶の間違いですかね、町長、いかがですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 それは私の林業政策の中でもありましたが、表現しなかったのも、私の頭の中には一部ありました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 ここで観光協会の提案で下仁田町の森林を観光開発の一つにしたいと。でも、町長、考えてくださいよ。下仁田町は85%が山林ではありますけれども、その山林の中で人工林が何%ありますか。90%以上でしょう。あわせて下仁田町の山は勾配がきつくて、神津牧場の駐車場から荒船風穴までおろす、あの舗装道路を歩くのも嫌だという人たちがいっぱいいる中で、こんな急峻な山林を観光開発にするというのはちょっと発想が違うんじゃないかなというふうに感じております。

なお、この表敬訪問ではCLTの話は全然出なかったんですね。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 出ました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 多分行政側は承知かと思うんですけれども、CLTの活用促進の政府一元窓口は内閣官房なんです。内閣官房に話を通さない限りは林野庁長官のところへ行っても、本当に水の上に浮いた油程度の話しか聞けないはずです。それはいかがでしたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 ですから、表敬訪問で行ったということなんです。その中での話ということです。その目的で行ったということではないです。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 せっかく表敬訪問するんですから、民間人まで連れて、課長、係長まで連れて行って、表敬訪問、表敬訪問って言っていますけれども、狙いはほかにあったんでしょう。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 先ほど言いましたように、表敬訪問プラス国の林業行政、これをお聞きしてきました。

以上です。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 町長にとって国の林業行政はCLTのはずです。内閣官房に行く場合に、山口さんと加藤さんという方が担当者ですから、CLTの問題で今後林野庁を訪問するときには、まず先に内閣官房に行っていただきたいと思います。

それとCLTの話が出ましたからお尋ねしますが、林野庁木材産業課、ここの課はCLTの製造設備、原木供給、ストックヤード、これについての事業と補助金を支給する場所であります。下仁田町にCLTの工場をつくる考えはあるんですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 CLTに関しましての話ですけれども、これは先般、私も2月でしたかね、CLTで地方創生を進める国会議員連盟、こういうものが昨年立ち上がっておりまして、志望のある全国の首長、これが加盟しております。そのことしの会議が2月に、日にちと月がちょっと定かでないんですけれども、行ってまいりまして、その中で、これは議員連盟なんですけれども、石破茂衆議院議員が会長をしております。その会議を見てきまして、これが一番国の最新の情報かなと感じておりますが、日本に入ってからもう7年、8年たつんですけれども、いろんな建築基準なり、いろんな方向性、国としてもまだ国交省が建築基準法に関するロードマップができたのが3年前、そんな中での今流れであります。それで、またCLTの議員の会議だったんですけれども、これは参議院会館の1階で行われたものでございます。一番これが最新の情報かなと思いますが、それを見て感じたのは、まだまだ時間がかかる。国のこれからの動向をしっかりと見ながら進むしかないかなと。ただ、それには国がやることですから、始め出すと早い。ただし、今状況が状況なので、法整備もなかなかままならないところで、進めているんでしょうけれども、時間がかかっているところですから、まだ下仁田でどうかということにはできないんじゃないかなと。ですから、今できることをやると。林業行政、そのところも考えております。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 町長、珍しいね。質問にそんなに長い答弁は久しぶりに聞きました。CLTに関しては工場は下仁田町はできません。下仁田町のとる方策としては、原木の供給か半製品、こういうようなことについて森林組合が木材協同組合とよく情報交換していただいて、下仁田町にはCLTの工場は絶対にできません。5年たっても10年たっても。それを基本にCLTの方策を考えていただきたいと思います。

次にまいります。

4月9日に町長代理で副町長とある集会に参加しました。その折、石井国交大臣に面会ができる機会がありましたので、会場で以前からの付き合いのある、ある大学教授に依頼して、石井国交大臣と重点道の駅のことにつきまして会話ができました。私は重点道の駅のことについては詳しくございませんので、副町長が十分石井国交大臣と質疑応答していて、大変有意義な集会に参加ができたなど。町長の代理で副町長を出させてくれたことに対して感謝申し上げます。

そこで、その会場で小淵代議員から、町長さんが13日に事務所を訪れてくれるんだけど、どんな要件ですかねと、こういうお尋ねがありましたけれども、4月のうちに町長、東京へ行く気だよという話は耳にしていたんですけれども、内容がわからなかったから、わからないねというふうに答えておきました。それで、日にちがたって、4月12日の夕刻に、東京の事務所から急に訪問のキャンセルがありましたけれども、どんな理由なんだろうかというお尋ねがありました。どんな理由でキャンセルなされたんでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 東京へ行く予定があったんですけれども、予定が変わりまして、キャンセルさせてもらいました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 その電話があったときに、大変町長には失礼かと思ったんですけれども、大変身近な肉親に不幸がありまして、急遽キャンセルさせていただきまして、そういうふうに答弁をしておきました。

なお、この4月13日の経産省商務情報政策局訪問の予定でしたけれども、この予定をどなたから政策局に訪問をすることに紹介してもらいましたか。紹介者はどなたでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 これは経済産業省へ行く予定で予定を立てました。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 どなたの紹介で事務局に行くことになったんでしょうか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 個人名なので、ちょっとどうかなと思います。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 個人名でどうかと。事務局に町長が訪れるのに紹介者の名前

が言えない。個人名ということは、この経産省は小渕優子代議士が大臣をなさった経過がありますけれども、小渕大臣、大臣を経験したことのある人を、議場の質問で名前が公表できないような人に紹介されて行ったということはまことに残念であります。この同行者はどなたでしょうか。

行っているんじゃないくて、どなたを連れていく予定でしたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 これは岩崎さんです。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 町長が黙っていても先さんにお尋ねすれば面会のコンタクト、全部東京の事務所が調べてくれるんですよ。岩崎さんというのは下仁田町の岩崎さんっていう苗字、たくさんありますけれども、岩崎どなたでしょう。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 岩崎議員です。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 議長には4月13日に事務局に行く話はあらかじめありましたか。

○議長 佐藤勇二 はい、ありました。

○12番 佐藤公夫 議長にあった。

○議長 佐藤勇二 岩崎さんからありました。
佐藤君

○12番 佐藤公夫 これは町長ね、議長に話をすることなんです。議長は岩崎議員からこういう話があったと言っているけれども、町長は議長に話をして、議長が俺は都合が悪いから副議長、行く予定を組んでくれやというのが正常な手法だと思います。このあれにはどんな計画を持っていく予定でしたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 経済産業省におきましては、近代産業遺産登録制度において、当町の歴史館に展示してあります赤羽製鉄所製の耐火れんが及び中小坂鉄山製火鉢、これを選定していただきまして、登録後既に10年が経過しておりますが、これは大変名誉なことであったと思います。しかし、この登録に際し、改めて国へのお礼を込めた訪問を実施した形跡が見られなかったことも事実です。

また、当町はジオパーク推進活動と関連し、世界遺産荒船風穴を初め、田島屋こんにゃく水車、中小坂鉄山など、文化庁所管の文化財と異なり、経済産業省所管の産業遺産と密接な関係があると深く認識しております。これら

を背景に、いかに産業遺産という町の宝を今後のまちづくりに反映させ、どういうふうに持っていくかは一つの課題であると思います。行政施策、そういう意味では行政施策の立案にはいろいろ調査、構想、計画実施のプロセスが大事であり、まずは議会の皆様にご提案するための企画立案の第1段階であります調査という気持ちもありまして、経産省の訪問を計画いたしました。しかしながら、その段階では過去のお礼はできても、まだプラン的なものはしっかりしてなかったもので、取りやめたという次第であります。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○12番 佐藤公夫 世界遺産にしろ、産業遺産にしろ、遺産登録の申請場所は文科省ですからね。ダレがその答弁を考えて、そんな経済産業省へ行って、遺産登録の話をしたんだかわかりませんが、次がありますので、次に進ませていただきます。

今までの一連の答弁の中で、観光協会の松本さんの名前が出、本来であれば、この13日にもどなたかの名前が出るかと予想しておりましたが、上手に回避されたようですけれども、一連の答弁で松本さんが町長の側近ではないかなというふうに感じる部分があります。3月の農林省の訪問も、この4月13日の経産省の訪問の予定についても、何か松本さんが、ここには本来なら副町長が一緒に行くべきなんですよ。12月の定例会後に正副議長と同行でうきは市議会に吉弘副町長の継続をお願いに行きました。この継続に行く前に、私が落選する前の在職中、金井町長とうきは市に行って、吉弘氏を下仁田町の副町長で迎えたいというお願いに行ってまいり、ご承知のように4月1日から副町長として勤務しておるわけですが、これは中央省庁訪問に関しても松本氏の影が見えるということとあわせて、町長が民間人や一部業者の意見を聞くことは町長の政治姿勢だとは思いますが、町長、ちょっと左見てください。左には副町長いるんですよ。副町長とともに進みたいということを12月の定例会の所信表明で、今後吉弘副町長とともに早期実現に向けて取り組みを強化してまいります。これは議会議事録の6ページに載っていますから、後で読んでください。

なお、その議会議事録の9ページ、岩崎議員の質問に対して、地方創生に関しましても、ほかのことも含めて副町長とともに進んでいきたいと思いと、こういうふうに語っています。その言葉に町長としての二言はないですね。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 今も進んでおります。なぜ町長と副町長が、県外へ、東京へ行け

なかった。これは私が町長になって町にきた時から、町の中の町長公室の方針で、町長、副町長が２人一緒に町をあけるのがリスク管理上好ましくないと、そういうことで言われていまして、ですから、県内、県外はまずいということで、県内だけでとどまったと。その結果であります。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○１２番 佐藤公夫 それが一番最初の質問のところで答える要件なんですね。中央省庁に行ったか、県に行ったかというところで、それは私は遠くへ行くわけにいかないから、県庁までにしたと。副町長には中央省庁に行かせたよということであります。

時間がなくなってきましたので、最後に……

○議長 佐藤勇二 あと２分です。

○１２番 佐藤公夫 指名業者を初めとする面会の対応についてお尋ねします。

町長、副町長、教育長面会に対する基本的取り次ぎ要綱はありますか。

○議長 佐藤勇二 町長公室長

○町長公室長 荻野英雄 基本的な要綱でございますが、現状といたしましては、そういった要綱の制定はしてございません。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○１２番 佐藤公夫 これはやっぱり要綱はつくっておいたほうがいいと思いますけれども、町長、どうですか。

考えがまとまらないようなんで、時間もないから次にまいます。

町長室あるいは副町長室、教育長室、面会者があった場合に、必ず同席者を置くこと、これに今後徹底してもらいたいと思いますけれども、町長、どうですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 ほとんどそうしているつもりですが。

○議長 佐藤勇二 佐藤君

○１２番 佐藤公夫 つもりでもつもりじゃないんだよね。実質的に密室になっている機会が、私が訪問しても、はい、町長室、どなたが入っています、ああ、そうかということで、町長室のドアをあけずに引き返したことが何回となくあります。

それで、町の指名入札業者が入札審査会が始まって、入札日までの間に庁舎を訪問する制限をつくる気はありませんか。制限と言うとおかしいんですけども、町の指名業者がひっきりなしに庁内を闊歩して歩いていて、１月以降、庁舎内がまことに疲弊しています。それは町の指名業者が庁内を闊歩

し、言いたい放題のことを言っていることが原因であると私はそばにいて聞いていて、そういうふうに感じました。ぜひ指名業者の発表以降、業者の庁舎内の訪問をある程度制限する規則などをつくる必要があると思います。行政側でつくらなければ、議会の皆さんにご協力いただいて、議会提案で面会規制の要綱を提案したいと思います。

最後になりますけれども、町長初め職員の皆さん、皆様方の部下、職員が愚痴をこぼさない職場環境をつくってください。本人は愚痴なんです。なかなか思うようにいかない。ただ、聞く側に立ってみると、聞いた側はその愚痴が愚痴じゃなくて悪口に聞こえるんです。愚痴をこぼさせないような職場環境づくり、それが職員が愚痴をこぼさなく、毎日の仕事を精いっぱいやれば、住民福祉の向上、増進につながり、町民が喜ぶんです。

○議長 佐藤勇二 時間です。

○12番 佐藤公夫 はい。ということで愚痴をこぼさない職場づくりに努めてもらいたいと思います。

大変ありがとうございました。

○議長 佐藤勇二 ご苦労さまでした。

続いて、一般質問を許します。

木暮弘元議員

木暮議員、時間が途中で切れますので、自分の切れるタイミングでお願いしたいと思います。よろしくお願いします。

(木暮弘元議員 一般質問席へ)

○4番 木暮弘元 議長のお許しが出ましたので、4番議員、木暮弘元が一般質問をさせていただきます。

下仁田町は現在、少子高齢、過疎化対策等が最大の目的となっております。この課題に対応しなければならないと私は思っています。通告書には答弁者は町長、教育長と記載しております。町長、教育長さんに本日は答弁をお願いしたいと思います。

本日は中学校の学力向上対策等について伺います。

教育委員会の教育委員長、教育長制度が改正されました。下仁田町は平成なん年から制度改革を実施しているのですか、教育長さんにご答弁をお願いいたします。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 今のお答えなんですが、教育課長に答弁させます。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 私は教育長にお願いしたいんですが。

○議長 佐藤勇二 では、教育課長の答えは要らないということですね。教育課長の答えはよろしいんですか。

○4番 木暮弘元 いや、今指名を教育長にお願いしているわけなんです。

○議長 佐藤勇二 教育長は教育課長にと言っていますけれども、どうしますか。
(「議長判断でいいんだよ」の声あり)

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 それでは、お答えいたします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部改正が行われまして、平成27年4月1日から施行となっております。下仁田町においては平成28年7月1日から新教育長制度に移行しているところであります。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 わかりました。

次にいきます。

首長が教育長を任命できるように改正されました。教育委員、教育長の任命権者として選考基準をお聞きます。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 木暮議員の質問にお答えします。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条に教育長の任命について記されています。当該地方公共団体の町の被選挙権を有する者で、人格が高潔で、教育行政に関し識見を有する者のうちから町長が議会の同意を得て任命するとあります。選任に当たっては、教育行政に高い識見を持っている人を第一に考えます。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 それでは、次を伺います。国は教育改革を実施しました。下仁田町は小学校が統合6年目、中学校は統合13年が経過しました。教育長、教育委員の委任に慣例では5地区から任命されていたようです。もはや地区にこだわらず、全域から適任者を選出し、任命する考えはありますか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 平成24年4月に小学校が統合になって、小中学校、下仁田町は1つとなっております。ということは校区は1つということですから、今後は地区にこだわることなく、適任者を選任していきたいと考えております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 次の質問です。適任者を選任するに当たり、委員構成はどのよ

うになりますか。できれば学識経験者を、特に女性登用を、または保護者等を含めて構成する考えはありませんか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 委員の任命に当たっては、同法律に委員の年齢、性別、職業に著しい偏りが生じないこと、また、保護者である者が含まれるようにしなければならないとあります。よって、女性や保護者の選任も努めていかなければならないと思っております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 次にいきます。

町長の選挙公約は継続ではなく刷新でしたね。当選してから公約を変えているんですか。人心一新して町政に臨むと私は思っていました。教育長の任命については継続ですかね。お答えいただきたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 先ほどの話で、選挙公約、継続ではなく刷新と。これは私が言ったことではなく、状況が選挙のときに相手候補が継続というのを使っていました。そんな中で上毛新聞が私のことを刷新と書いたと。そういうことから、選挙公約にはありません。

ですから、教育長任命に当たってまずですね。それから、刷新という言葉なんですけれども、これは弊害を除き去って全く新しいものにしていくこととあります。そんなことも考えますと、刷新とか何とかでなく、私は就任前から教育長を変える意向もなかったもので、継続でお願いいたしました。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 確認のためなんですけれども、今上毛新聞に書かれているということ、これは上毛新聞に間違いだということで、きちんと正しましたか。今、上毛新聞で報道されたということで、それは間違いだということをちゃんと抗議して正されましたか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 間違いも何も別に書かれたことは書かれたことだけですから。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 それに対しては何の抗議もしなかったということですね。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 はい、抗議はしませんでした。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 教育長人事については刷新ではなく継続、いろいろと今答弁を

いただきましたけれども、本来であれば議会に同意の人事案件を提出して、同意を求めるのが私は筋ではないかなと思っております。

(発言する声あり)

○4番 木暮弘元 私が質問しているんだから黙っていてよ。

○議長 佐藤勇二 わかりましたか。

(「わかんない。何と言ったの」の声あり)

○4番 木暮弘元 ちゃんと聞いていてくださいよ。

(「聞こえないんだよ。マイク使ってください」の声あり)

○4番 木暮弘元 教育長人事については刷新ではなく継続ということでお聞きしました。本来ならば議会に同意人事案件を提出して、同意を求めるのが私は筋だと思っております。お答えください。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 先ほどの答弁と同様、変える意向はありませんでしたので、継続をお願いした次第です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 じゃ、もう一度お聞きいたします。教育長は町長に進退伺いを出したかどうか。それと、今任期継続ということをお聞きしましたけれども、これは2人だけの話し合いで決めたのですか。

(「議長、ちょっと休憩」の声あり)

○議長 佐藤勇二 暫時休憩します。

休 憩 午前11時53分

再 開 午前11時55分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開をします。

木暮君

○4番 木暮弘元 今の件は納得いたしました。

以上です。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 私が本来言っているものかちょっとわからないんですが、教育課長のほうから答弁させます。よろしくお願いします。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 新教育長制度に変わってから教育長の任期は3年となりました。その間は守られているといいますか、教育長のほうからやめると言わない限り、その間は教育長を続けられるということになっておりますので、制度をご了解願いたいと思います。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 わかりました。

○議長 佐藤勇二 それでは、ここで暫時休憩してよろしいですか。
(「はい」の声あり)

○議長 佐藤勇二 それでは、暫時休憩します。
午後の再開を1時とします。

休 憩 午前11時56分

再 開 午後 1時00分

○議長 佐藤勇二 休憩を解いて再開をします。
木暮君

○4番 木暮弘元 それでは、次にいきます。

教育長さんにお伺いいたします。全国学力テスト、小学校、中学校、毎年実施されているようです。下仁田町は平成何年度から実施されていますか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 ただいまの件について教育課長に答弁させます。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 平成19年度から全国学力・学習状況調査として実施をしております。この調査につきましては、教育委員会が学校が速やかに児童生徒の学力や学習の状況、課題等を把握すること、その結果を踏まえて学習指導の改善や充実等に取り組む際に役立てることを目的として実施をしております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 続いて、全国群馬県小学生、中学生学力テストの結果の順位は何位でしたか。また、群馬県内において下仁田町の小学生、中学生の学校別順位は何位でしたか、お伺いいたします。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 平成29年度の結果はまだ出ておりません。平成28年度の結果について申し上げます。群馬県のレベルにつきましては、小中学校とも全国の平均レベルにございます。下仁田町のものについてはこの場では発言を控えさせていただきます。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 私は今レベルだとか、そういう問題を聞いておるんじゃないんですよ。順位の問題を聞いておるので、ぜひ群馬県が全国で何位かということと、群馬県内において下仁田町の小学生、中学生の学校別順位は何位です

かということをお聞きしているので、それにお答え願えればいいと思うんですけれども。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 それでは、この場での発言を控えさせていただきます。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 レベルが下がっているとかというそういう話じゃなくて、私は全国の順位を聞いておるんです。

また、文部科学省から恐らく教育委員会にもう通知が来ております。平成27年度全国学力・学習状況調査の実施について、26年度12月9日通達ということで、教育委員会も責任を持って公開するという文書がここにあります。ちょっと議長に見てもらって、この通達文書を議員さんに配付したいと思うんですけれども、ちょっと持ってきますので、よろしくお願いします。よろしいでしょうか。

○議長 佐藤勇二 暫時休憩します。

休 憩 午後 1時04分

再 開 午後 1時06分

○議長 佐藤勇二 それでは、休憩を解いて再開します。

木暮君

○4番 木暮弘元 この文書の下の方の段を簡略に読ませていただきますけれども、教育委員会や学校が保護者や地域の住民に対して説明責任を果たすことが重要ですということであります。要するにこの現状を踏まえて、しっかりと保護者や地域に順位を積極的に説明責任を果たしていかなければだめではないかなと思って私はこの質問をしましたので、ぜひホームページには全国中学校の各県の順位が出ていますけれども、改めて教育委員会さんに群馬県の順位と下仁田の小中学生の順位を公表していただければと思います。

(「この文書は下仁田町の教育委員会に来ている文書じゃないよ」
の声あり)

○議長 佐藤勇二 いかがですか。教育課長

○教育課長 大河原順次郎 今いただいた資料なんですが、その線を引いてある真ん中から下ということで序列化、過度の競争が生じないようにという文言も書かれております。県の担当課長会議の中でも公表してない市町村がほとんどだというふうに理解をしております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 私は大切なことだと思いますけれども、やはりやっているところ

もあるし、やってないところもある。だけれども、今この町のほう、教育委員会の置かれている立場、やはり公開を原則としないと、町民に信頼関係、例えば現在保護者に対してもやはり安心して学校生活を送らせるということとはできないということもありますので、ぜひ私の意見を取り入れてもらって、ここに明記されている通りの事をよろしくお願いいたします。別に過度のいろいろなものということではなくて、やっぱりきちんとした実態を地域に知らせることが私は大切ではないかなと思っています。よろしくお願いします。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 ただいま木暮議員のほうからご意見があったんですが、教育委員会といたしましては、この文科省の通知のように序列化を一切考えておりません。町内でそれぞれ1校ずつです。その序列化をする必要性が私は全くないというふうに考えておりますので、順位については公表はいたしません。現在県内でのそれぞれの市町村でこの学校が市内で何位ですよというふうに公表しているところはございません。実際私どもの下仁田町の小中学校が現在群馬県において何位であるという結果は県の教育委員会のほうからも届いておりません。ですから、一切今後順位については公表するつもりはございません。

以上です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 この件に関してはちょっと最後にしますが、やはり保護者や地域の方々に信頼を得る。それと、いろいろな全国にも教育委員会がたくさんございます。いろいろと■■■■してという部分もあります。ぜひぎくばらんに公開して、やっぱり保護者の理解を得ながら、いい教育行政を私はやっていただければと思います。

以上です。

○議長 佐藤勇二 木暮議員、■■■■という言葉は撤回したほうがいいと思いますけれども。

○4番 木暮弘元 はい、わかりました。すみません。この町じゃなくて、全国的にもそういうような事例がありますので、ちょっと使わせていただきましたけれども、議長がそう言うのでしたら、その部分だけは削除させていただきます。

○議長 佐藤勇二 続けてじゃ質問をしてください。
木暮君

○4番 木暮弘元 次に入きます。

教育長は町長に全国学力テストの結果を報告しましたか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 お答えします。

総合教育会議において報告をさせていただきました。

以上です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 町長は教育長に全国学力テストの結果を受けて、最高責任者としてどう感じましたか。また、感想とともに、どのような指示を出しましたか。今後はどのような指示を出しますか、お伺いいたします。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 会議の中で教育長より報告を受けました。教育、これも大事なまちづくりの重要課題と感じております。学力向上のために学校側と力を合わせて努力願いたい旨を話しました。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 次に入きます。

町長は先ほど来から最高責任者として総合教育会議を設置したということでございますけれども、この設置はいつからやられているんですか。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 総務課長に答弁させます。

○議長 佐藤勇二 総務課長

○総務課長 浅川幸則 お答えします。

総合会議につきましては、平成27年度に設置し、直近においては2月21日に開催いたしました。なお、毎年1回から2回開催しております。なお、緊急な案件につきましては、その都度開催することとなっております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 次に入きます。

学力テストの結果について教育委員会は協議検討をいたしましたか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 結果報告とあわせまして、今後の対応策を含めて教育委員会で検討いたしました。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 結果報告をいただいたということなんですけれども、検討の内容について、その内容はどんなような内容でしたか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 先ほど説明責任というお話もありましたが、教育委員会といたしましては順位は公表しないというふうに考えております。ただし、結果ですね、試験のどんな部分ができなかったか、そのようなものは明らかにしていきたいと考えております。ですから、できなかった部分について説明をいたしました。例えば小学校の国語では、下仁田町は読書が好きと答えた児童が少ない。目的に応じて話したり書いたりすることが苦手な児童が多いという事。算数では、最後まで諦めずに考える。問題を解く簡単な方法を考えたりすることが苦手な児童が多いということがわかりました。

また、児童自身の質問紙、ふだんの生活についての質問紙ですが、そのような質問紙からは、よいところを認めてもらえない、わかるまで教えてもらえないなどの課題があり、家庭学習においては予習をしないという児童が多いことがわかりました。また、授業や指導方法については、授業の目標が示されない、授業の振り返りが行われていない、ノートが活用されていない、指導方法も工夫改善がされていないなどの課題が明らかになりました。

これらを踏まえて、授業や指導方法については課題を立てて取り組むこと、授業を振り返る活動を充実させることが課題であると明らかになったことから、3つのポイントを絞って学校のほうに指示をいたしました。1点目といたしましては、課題を全部の教員で共有をして、授業改善の意識を高めること、2点目といたしまして、学習課程、見通しを持つ、思考をする、振り返る、いわゆる授業スタンダード、これを明確にして授業をすること、3点目といたしまして、学習習慣を定着させるために、家庭学習の手引をつくって、家庭とも連携を図ること、この3点を指導いたしました。

以上です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 それでは、いろいろとお伺いいたしましたけれども、続きまして、テストの結果を踏まえて、教育現場の教職員全員を対象に協議し、改善を求める指示をしましたか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 学力・学習状況調査の結果については、教育委員会だけではなく、学校現場にも届いております。その結果については、学校では校内研修という職員の研修の時間がございます。その中で学校で独自に結果を検討し、そして課題を明らかにしております。そして、学校以外では教育委員会主催の月1回行われる校長会で学力の状況、そして分析についても私のほうから

指示を出しております。これらの校長会を通していろいろな学校の情報、そして教育委員会の情報等を共有して、子供たちの指導に生かしたいというふうに考えております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 今お話がありました。やはり校長会、私は校長会のみではだめで、学校の先生にもいろいろな先生方がおりますので、ぜひ校長会のみではなくて、一般の教職員を対象にきめ細かな指導をして、生徒のために頑張っていたいただければと思っております。

次に、教育長の指導に対して、現場から学力テストの改善点の報告がありましたか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 現在、小学校では毎年取り組んでいる結果を報告していただいています。ただ、急激にいい方向に向かったという報告は受けてないんですが、小学生が中学校に進みまして、中学校の3年間で小学校のときより全国平均あるいは県平均と比較いたしまして伸びているという報告もありますし、私のところにも県のほうからその結果が届いております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 ぜひきめ細かい現場の先生方のご指導をよろしくお願いいたします。

次に、テストの結果、いろいろと場があると思うんですけども、保護者に説明を先ほどから求めました責任はもうやり始めたんでしょうか。やっているんですか。やっていたらいつごろからやっていたか、それもお答えください。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 保護者に対しての説明ということですが、これについては例年8月末に文科省のほうから学力状況調査の結果のまとめが教育委員会に届きます。その結果を学校に通知をいたしまして、学校で分析をする中で保護者に報告させていただいています。その報告の方法といたしまして、学校通信等でその結果について報告をさせていただいています。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 1年に1回と言わず、この問題はきめ細かにやらないとやっぱり私はだめだと思っています。

次に、教育長はどのような指示を出しながら教育現場に通常の教育方法、または翌年に向けての指針をどういうふうにやって伝えていますか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 それでは、お答えします。

私の指針をどのような形で伝えるかといいますと、これは校長会を通して伝えるのがまず第一です。それと、教職員の全体の研修の機会を通しまして、私のほうからは全体に向けて町の教育方針等について話をしております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 次に、教育長さん、下仁田独自の学力の向上に向けての取り組み、また魅力ある学校づくりの取り組みについて伺いたいと思います。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 それでは、お答えします。

先ほど町長のほうからも答弁があったんですが、本町では小学生、それから中学生の学力向上のために、昨年度から土曜スクールを開校いたしました。この土曜スクールは、大学生等、土曜日等に学習支援事業の講師として迎えまして、学習習慣の見直し、あるいはＩＣＴを活用した学習支援を開始いたしました。そのほか小学校では放課後子ども教室を実施して、放課後の児童の指導、これは学校ではなくて、教育委員会が主体となって行っております。

また、今年度は町のほうからご理解をいただきまして、より児童生徒の学力向上を目指すために、小中学校の教職員を全国学習状況調査で、毎年上位にあります秋田県に派遣いたしまして、秋田県の学校の様子を現場で生で見聞きして、それを下仁田の教育に生かしてほしいというふうに考えまして、小学校２名、そして中学校２名の４名の教職員を今月の２９、３０、２日間秋田県のほうに派遣いたします。それ以外に私も総務常任委員会のほうでお話をさせていただいているわけですが、小中の連携、そして教科担任制、そしてＩＣＴの活用、そしてさらに今年度は英語教育の充実ということに取り組んでまいりたいと思います。

実際小中連携については、もう４月から中学校の教員２名に対して兼務発令を出しまして、小学校の外国語活動の授業、そして算数の授業に中学校の教員がかかわって指導をしております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 ぜひしっかりと秋田に行かないで、下仁田に来たいというぐらゐな指導力を発揮して頑張っていただければなと思っております。

続きまして、児童の学力向上と保護者の協力をどのようにお願いしているんですか、教育長さんにお聞きいたします。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 まず、保護者に協力を依頼するというのは、私が直接するわけではございませんが、まず学校の保護者会、そしてPTAあるいは学校通信、学年通信、学級通信等を通じて、特に学力向上に向けた家庭での予習、復習等の重要性に触れまして、保護者の協力を得たいというふうに考えております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 今の家庭環境、やっぱりしっかりと家庭にも寄り添わないと学力の向上につながらないと私は思っております。ぜひ教育の現場に対しても、家庭にいろいろと欠点と言っては失礼かもしれないけれども、いろいろな家庭には思いがございまして、その辺を現場の教員がしっかりと見て、寄り添って、いい意味で学力を向上させていく上には大切なことだなと思っております。

それでは、次にいきます。

私は一つの対策としては、習熟度別授業が有効ではないかと思っております。教育長さんは教育の現場と保護者の現状を理解していただき、3者が一体となり、改善対策の検討が必要ではないでしょうか。教育長のお考えをお聞かせ願います。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 今、木暮議員のご質問なんですが、保護者、学校、教育委員会が三位一体となって教育を改革するというふうに私のほうでは今とらえさせていただいてんですが、これについては絶対に必要不可欠な問題でありまして、保護者の協力がなければよりよい教育はできません。ですから、今後とも連携を図りながら、学力向上に努めてまいりたいと考えております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 もうちょっと質問させていただきます。保護者に対しての連携と言うんですけれども、協力の手法というのは少しぐらいはお持ちなんですか。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 協力の手法と申しますと、保護者と連携を手法する。これは私が思うには一方通行の例えば学校からの連絡だけではお互いの意思の疎通ができない。ですから、お互いに連絡を取り合える方法、例えば小学校でありますと家庭連絡ノート、そういうものを通して、相互に連絡を取り合いながら連携を深めていくことが大切だと考えております。中学校で言いますと、

生徒が生活ノートというものを毎日つけております。その生活ノートを通して、生徒と教員は相互に連絡をとりながら、共通理解というんですか、理解をし合っているところですが、その辺を今度は家庭のほうにも広めていく必要があるのではないかというふうに考えております。ただ、すぐにできるということも難しい面もあります。今後検討をさせていただきたいというふうに思います。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 ただいまの説明をお聞きいたしました。ぜひ粘り強く、しっかりとやっていただければなと思います。

次に、学力向上を目指すためには、町にお願いして教員の増員を図る考えはありますか、教育長さん、お伺いします。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 学力向上の方策といたしまして、非常に簡単なのは教員の増員、これができれば非常にありがたいんですが、現在下仁田町の状況ですと、児童生徒が年々減っておりますので、それに伴いまして教職員の配置、これは県のほうから毎年減らされているというのが現状です。そのために、できれば町のほうにお願いしたいという気持ちはやまやまあります。そして、現在町のほうから大変ご協力をいただきまして、ほかの市町村ではなかなかできないことをやっていたいております。例えば現在、マイタウンティーチャーといたしまして、英語の支援員を小学校に1名配置していただいております。また、小学校、中学校に支援員という形で、それぞれ1名ずつ、計2名の支援員を配置していただいております。それらの職員を使いまして、学力向上に生かしていきたいというふうに考えております。学校からもし今後増員の要望がありましたら、検討させていただきたいというふうに考えております。

ただ、最後に申し上げますが、町内から例えば支援員等の募集をいたしましても、なかなか応募していただけないというのが現状です。この辺が今後の課題というふうに考えております。

以上です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 英語も今度教科のレベルを上げなくてはならないということで、ぜひ頑張っていただければなと思っております。

それでは、町長に、ただいま学力向上を目指すために、町費を使って教員の増員を図る考えがあるかどうかをお聞かせ願いたいと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 そのことは総合教育会議の中で検討していただきたいと思っています。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 今、町長が総合会議の中で検討するということですが、大体町長はいつも検討、検討と言っていますけれども、いつごろから期日を示していただければと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 期日は今切れません。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 ただいま期日はありませんと言ったんですけれども、学力の低下が見られるということでございますので、やはりのんきなことは言ってもらえないと思うんですよ。やはり目標期日を決めて、教育委員会としっかりとやっていただければなと思います。

町長もやはり一番上の、教育委員会の統括をするわけですから、ぜひ危機感を感じながら、やはりしっかりとやっていただかないと、やっぱり保護者の理解は得られないということで町外へ行ってしまうということもありますので、その辺は目標を定めて検討するだけじゃなくて、しっかりと教育行政を見てやっていただかなければ、教育長もお困りになるんじゃないかなと思います。

議長、時間はどのくらい。

○議長 佐藤勇二 あと10分ですね。

○4番 木暮弘元 10分ですか。

○議長 佐藤勇二 どうぞ続けてお願いします。

○4番 木暮弘元 それでは、ちょっと飛ばしますけれども、ちょっとよろしいでしょうか。不登校についてじゃなくて、体罰についてということで、時間の都合上お聞きしたいんですけれども、体罰については小中学校にありますか、現況をお知らせください。あれば何件ぐらいですか。

○議長 佐藤勇二 体罰。どちらが答えますか。

教育課長

○教育課長 大河原順次郎 さきの全員協議会で報告をさせていただきました件以外には報告を受けておりません。ないのが現状です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 さきの全員協議会において報告があった件については、事件の

事例はいつごろあったんでしょうかね。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 3月です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 3月から今大分、6月ですから、その間どのような処置をされたでしょうか。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 事例の調査をし、県と報告書のやりとりをし、間違いないような報告書を県に進達したところであります。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 3月から大分たっています。議会にもその3月の全協と4月、5月、全協あります。その間の間にいろいろと調査、報告がされていない。それは変じゃないかということなんで、やはりなぜ今まで回答が来なかったという説明がなかったかということをお伺いさせていただきます。

○議長 佐藤勇二 教育長

○教育長 茂木学 今の木暮議員のご質問にお答えします。

この件につきましては、特に個人情報保護の観点から、この場では答弁を差し控えさせていただきたいというふうに考えております。

なお、詳細については全員協議会等でご報告をいたします。

以上です。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 それでは、しっかりとした説明を全員協議会でぜひやっていただければと思います。

次に、教育機関において病気で長期欠席や職場放棄等はないですか。さきの県議会でも質問がありました教員の多忙化について町の状況はどうなっていますか。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 現在、病気休暇が1名、産前産後の休暇が1名おります。その代替につきましては群馬県の任用であることから、補助教職員、産休の補助の教職員を配置していただいているところであります。職場放棄については現在ございません。

教職員の多忙化についてですが、単学級、単学年が多くなってきております。それによりまして教職員の数が減っていることから、特に小学校において授業の時間のあきがございます。そんなこともありまして、授業の準備

につきましては時間外に行うことが多くなっているのが現在の状況です。

なお、多忙化解消対策といたしまして、本年度整備を予定しておりますICTの関連の一環といたしまして、校務支援システムの導入の予定をしています。

また、群馬県でも教職員の多忙化解消に向けた協議会が発足しております。状況調査や多忙化解消に向けた取り組みが始まったところですので、それらで対応していきたいというふうに考えております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 教職員の健康も大切ですが、子供たちに十分な細かい指導をよろしく願いできるように教育委員会もご配慮をしていただきたいと思います。

次に、教職員、臨時職員を含めてわいせつ行為や体罰、飲酒運転等で懲戒処分の事例はありましたか。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 現在私の知っている間には交通違反等で処分対象者はありません。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 なければいいことであるので、次に、下仁田町の懲戒処分の事例行為が発生した場合は罰則規定がありますか、お伺いいたします。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 下仁田町教育委員会独自の処分規定はございません。

先生の処分に関しましては群馬県教育委員会懲戒処分指針を適用させていただいております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 それでは、臨時職員についてはどのような雇用を、その罰則規定があるんでしょうかね。私、ちょっとわからないのでお聞きいたします。

○議長 佐藤勇二 教育課長

○教育課長 大河原順次郎 臨時職員についても同処分指針が該当になります。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 そういう部分で、もし明確に規定をつくるのであれば、策定をしたほうがよろしいんじゃないかなと思っております。

次に、町史編さんについて、さきの3月議会で議員から質問がありました。町長は前向きな答弁をされましたが、進捗状況をお聞かせください。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 この件ですが、現在、役場庁舎内や西牧活性化センター内にあった歴史的な価値を持った資料を旧小坂小学校に移動し、整理作業を行っています。この作業とあわせ、また町内に残る資料の収集も行っているところでございます。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 担当職員と委員さんはもう決まりましたかね。もう一つ、委員さんが選定されたその期日をお知らせください。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 編さん委員会ということですかね。

○4番 木暮弘元 はい、そうです。

○町長 原秀男 現在資料収集、整理に努めておるところですが、来年度に委員の選考準備に入りたいと思っております。

○議長 佐藤勇二 木暮君

○4番 木暮弘元 町長、来年度と言っていると、やはり資料がどんどんなくなっていくしますので、早期にやったほうが私はいいと思っております。早期に委員会の設置と委員の選考を早くしたほうが、実行していったほうがよろしいかなと思います。

○議長 佐藤勇二 町長

○町長 原秀男 資料を今収集しているところなんですね。だから、資料がなくなってしまうんでなくて、今集めているところです。ですから、そこも十分に慎重に広く集めなくてはいけないと思っておりますので、それも時間は要すると思います。

○議長 佐藤勇二 木暮君、あと1分です。

○4番 木暮弘元 それじゃ、しっかりと期日を決めて頑張ってもらいたいと思います。

時間と言われましたので、最後に、やはり教育改革こそ過疎からの脱却だと、これは私が思っている思いでございます。

以上、時間が来ましたので、終了させていただきます。

ありがとうございました。

○議長 佐藤勇二 ご苦労さまでした。

以上で一般質問を終結いたします。

○議長 佐藤勇二 本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。

大変ご苦労さまでした。

散 会 平成 2 9 年 6 月 7 日 午後 1 時 5 0 分